

かぜのきざし

2015 JUNE

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)

在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第031号

2015年9月1日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

特定非営利活動法人
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
第21回全国の集い
in 北海道 2015



地域を支えるための育てあい
～フロンティアの地 北海道から～

2015年
10月11日・12日

札幌コンベンションセンター
〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
草場 鉄周 北海道家庭医療学会センター 理事長

会場
東京 東京国際会議場
〒100-0041 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 011-374-1700 FAX: 011-722-5357

会場
札幌 札幌コンベンションセンター
〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
TEL: 011-280-8008 FAX: 011-280-4500
E-mail: contact@frontier2015.hkdo.jp

<http://frontier2015.hkdo.jp>

地域を支えるための育てあい

第21回 全国の集い in 北海道 2015

10月11・12日
いよいよ開幕へ!!テーマ
育てあい

フロンティアの地 北海道から

会員の皆様、暑さ残る時期ですが、お元気にお過ごしでしょうか？

いよいよ10月11・12日に札幌にて開催される北海道大会が1ヶ月あまりと近づいて参りました。

1年半の間、松井実行委員長の下、北海道にて保健・医療・介護・福祉に携わる専門職、そして市民からなる実行委員会が

着々と準備を進めて参りましたが、シンポジウムの内容や講師陣も固まりました。

今回の大会は「育てあい」を大切なテーマとして取り上げております。北大・松尾教授の基調講演では「経験から学ぶ力と人材育成」ということで、いかに日々の仕事から学びスキルアップしていくべきかを教えていただきます。また、特別企画では苛原会長と私も加わり3者の鼎談という形で、在宅を支える現場での育てあいのノウハウをよりネットワークらしく語りたいと思います。

初日の実践交流会はいつもの在宅に関するテーマを全国から参加する会員の間で楽しくかつ真剣に語り合っていたいただきます。語り足りない分は、その後の懇親会で北海道の美食を楽しみながら話に花を咲かせてください。

2日目の講演企画では今話題の「ユマニチュード」を筆頭に、



草場鉄周大会長

「広い！寒い！遠い！北の在宅医療を支えるプロフェッショナル」で北海道ならではの在宅の工夫、「地域で暮らす人を支える相互理解 Let's 地域ケア会議」おしえる・ささえる・つたえる」では地域包括ケアシステムの普及を視野に入れた議論、「地域を支えるため 卒前教育と卒後教育 連動」多職種連携・在宅ケアをキーワードとして「多職種での教育の実践例の共有など、実に盛りだくさんの企画を楽しんでいただきます。絶対後悔させないラインアップと自負しております。

すでに事前登録を頂いた会員の皆様は、どうか北海道での充実した二日間を楽しみにお待ちください。また、事前登録をされていない会員の皆様は、今からでも遅くありませんので、是非とも日程を確保して秋爽やかな北の大地にお越しください。

北海道・道産子の実行委員会メンバー一同、全国からのお越しを心よりお待ちしております。





7月17日に、多職種約60名の方々が集まり西十勝地域の輪が開催されました。そのプレ大会へ吉井敦子（次回大会地の鹿兒島・大会長）と事務局の楠元が1泊2日の行程で参加致しましたのでご報告申し上げます。

まず、スペシャルセミナーで、「家庭医療のエッセンス ～あなたのファミリーとして在り続けたい～」北海道家庭医療学センター 理事長 草場鉄周さんの講演がありました。家庭医を目指した経緯と、4事例の紹介がありました。事例を通じ

楠元寛之氏

『地方独自の地域包括ケアのあり方にヒント』

去る7月17日（金）、新得町において『第21回全国の集いin北海道2015』とかちプレ大会が開催されました。

2016年、第22回鹿兒島大会の吉井敦子大会長と事務局の楠元寛之氏が参加されましたので、『とかちプレ大会報告』をお願いしました。

とかちプレ大会

て、診察の幅が高齢者のみならず、働き盛りの男性や主婦の精神的な病への対応など専門領域や世代を超えた包括性が重要であり、病院受診に至らないその他大勢の地域住民をもっと気にかけるべきだと訴えられた。

講演の中で家庭医を目指した当初は「ゆらぎ」があったが、現在は地域の為には非常に重要な役割であると「家庭医への確信」に変わり、地域医療の問題解決の軸は、プライマリケアの組織的展開が重要で、今後の循環型地域医療支援モデルの展望を話されました。

最後に、地域ごとに医療の在り方は異なるため、何が出来るか医師とコメディカルと市民が協働しながら考えていくことで地域力が高まり、愛する故郷が更に住み易くなるだろうと締めくくりました。

つぎに、地域実践報告・座談

会として、地域医療・地域福祉の視点から「この町で暮らして良かったと思えるように」「みやざわ循環器内科クリニック 医師 宮澤一裕さん。新得町地域包括支援センター 主任介護支援専門員 小田島洋樹さん。地域密着型せらぎ荘 サービス管理責任者 鈴木康功さん。足寄町国保病院 医療ソーシャルワーカー 寺本圭佑さんの4名の報告がありました。

宮澤さんは、糖尿病や心疾患の方にバイキング形式での食事を実施し、食事に対する意欲を高める取り組みをされていた。小田島さんは、地元新得町をPRし、ケアマネの意見交換会を設立するなど「やはり新得町がいい」と言って頂ける為の奮闘記を紹介されました。鈴木さんは、施設職員の取り組みを主に紹介し、スタッフの離職防止や確保の為に、ソフトボールやバトミントン、フットサル等のクラブ活動を実施し大会で好成績をおさめている事例や、地域貢献として消防団員として活動し出初め式に参加したり、商工会青年部に入会したりするなど、地域の方々との結びつきを大事にしていると報告がありました。寺本さんは、地域包括

ケアの要は首長（町長）であると訴え、手上げ方式での医療の再編や、福祉課組織体制の再編、住まい確保の重要性から高齢者複合施設の開設等の事例の紹介がありました。更に、（先制的）遠距離訪問相談支援として地元の方が入院されたら直ぐに、入院先に訪問し退院後の方向性を検討する取り組みを行っていました。それにより本人や家族の退院後の悩みが始まった時点から関わりがもて、結果、特養の待機が大幅に減少する等の効果があると報告がありました。

全体を通じて、我が町をいかに魅力的にする為に、地域住民はもとより職員に対しても積極的に取り組んでいると感じました。また、「地域ごとに医療の在り方は異なります」と草場さんが言われたように、地域独自の医療連携の在り方を構築していく活動が、今後の地域包括ケアの在り方であると感じるとても有意義なプレ大会でした。



リレー寄稿

地域包括ケアシステム構築に向けての動き

～地域包括支援センターは、「診療所においても可能」～

NPO在宅ケアを支える診療所・全国ネットワーク副会長 大澤 誠

【2017】

この数字は筆者が開業する群馬県伊勢崎市内にある、高齢者の終の棲家となりうる施設（5か所の老健を除く）の入居可能者数である。同市は2015年4月1日現在、総人口21万1107人、高齢者人口4万8417人、高齢化率22.93%で、群馬県の10市の中で最も若い市である。

一方、2014年9月30日現在ではあるが、65歳以上の要支援及び要介護者数を合わせると8694人（18.3%）で、そのうち特養入所条件の要介護3以上は3457人（要介護2以上でも4940人）と比べると、施設系サービスは充足されていて、空床が目につく。また、通所介護は97か所、通所リハビリは6か所で展開されており、概算だが、通所サービスもおよそ5000～6000人分の利用者の吸収が可能と思われる

プホームと有料老人ホームに訪問診療が必要な患者さんがいて、そこに足しげく通っているが、グループホームはミニ特養化しているところが多く、住宅型有料老人ホームは法人内のサービスをを使うことに躍起となっている。また、時おり入居者の尊厳を傷つけるような言動を見かける。

② ①のような状況下で、新しい総合事業の通所型サービスや訪問型サービスの担い手はいたいどうするか？市内にもボランティア団体はたくさんあって、社会福祉協議会に登録しているが、一部の団体は高齢化していて、新しい総合事業の通所型サービスや訪問型サービスを担うスキルを持ち合

せていない。

③ 一部の地域を除き、住民に地域包括ケアシステムの意義どころかその名前すら浸透していない。…つまり、自治的な動きは限定的で、行政が活発に動き出すのを待っている状況と言える。

④ 在宅医療の普及が遅れている。在宅療養支援診療所としての算定は10件程度。

【地域包括ケアシステム構築に向けての動き】

こうした課題が山積しているが、打開へ向けての動きは少しずつ出てきている。その一つが「伊勢崎市の地域包括ケアを考える会」の発足である。これは、市内のある医療法人が介護関連事業を展開する他の医療法人3か所（筆者の法人を含む）、市社協、伊勢崎市、市内の福祉系大学の准教授等に声掛けをして、昨年12月に発足した任意団体であるが、昨年12月から毎月1



回集まって、議論を重ねてきた。そして、平成27年度群馬県地域医療介護総合確保基金の補助を得て、「新しい総合事業における訪問型・通所型サービスの介護従事者の養成事業」を4医療法人が主幹となって、それぞれ4つのボランティア団体を対象に展開することとなった。筆者の法人でも、行政が養成した認知症サポーターのうち、ボランティア団体『オレンジクラブ』入会者を対象として、回想法を用いたコミュニケーション技法を指導する予定である。

【二診療所でも】

現在、地域包括支援センターの公募が始まっており、この4医療法人は手上げをすることが予想されているが、地域におけるこうした動きが一診療所においても可能であることをお伝えして、本稿における筆者の役割を終えたいと思う。

【実践交流会2・認知症 座長として】

「いまだ、治癒することの少ない認知症だから、ご本人とご家族の生活のしづらさの改善を目指す」ことが医療やケアに求められています。「本人の思いや願いを大切に、その人らしい生活や人生を全うするために、私たちに何が出来るか」という趣旨のもと、認知症の医療とケアに対する皆さんの取り組みに関して、皆さんと共有したいと思います。

次回は、藤村淳子副会長
にお願いしております。

第1日目／10月11日(日) (実践交流会の全て)

北海道大会の1日目は例年通り『実践交流会』が企画されております。
発表演題について、後日抄録集に個々の詳細をお知らせいたしますが、先取りとして一気に掲載してみました。（お見苦しい点がありますが、今までにない視点を目指してみました）
昨年『フォローアップ』の推薦をいただいた方々の発表(太字アミカケ部分)にもご注目いただければと存じます。（2015年8月末現在）

島村 康夫
医療法人社団萌気会 萌気園
小規模多機能ホームさくりの郷
ケアマネジャー
「ママラさん」～重度認知症の人の記憶の本当のところ～

門田 美穂
介護保険サービス事業所 てらど
介護福祉士
メディア・セラピーの試み～その人らしさを支えるケアを目指して～

栗原 佳奈
介護付有料老人ホーム はなみずき
介護職
リハビリの視点を持って介護行う？
変化を追いかけた150日。

田代 峰夫
介護付有料老人ホーム ユーカリ小原
介護職
声かけの重要性～認知症を理解し気持ちに寄り添う～

山本 華代
医療法人 HCU たけとみクリニック
医師
レビー小体型認知症への医療とケアによる介入の一例

櫻井 由紀
介護保険サービス事業所 かいで
介護職員
日本の伝統文化「茶道のおけいこ」の認知症介護への活用とその効果検証について

佐藤 大輔
医療法人社団 都会 渡辺西賀茂
診療所 ショートステイにしがも
介護職
「帰りたい」という思いに向き合うこと

澤井 紀久代
医療法人社団 都会 居宅介護支援事業所
ひまわり
介護支援専門員
共に認知症のある夫妻の生活「お父さんと一緒にいたい」

江島 三枝子
特定医療法人フェニックス
管理者
BPSD 緩和により日常生活を穏やかに～医療連携の取り組み～

矢富 みつほ
医療法人社団 いでした内科・神経内科
クリニック
臨床心理技術者
重度認知症患者デイケアにおける集団回想療法の効果について

志邨 匡
医療法人 啓友会 グループホームめぐみ
介護支援専門員
多職種協働で営む「終の棲家」グループホームめぐみ

星山 祐子
医療法人社団 萌気会
萌気園グループホーム「ふきのとう」
管理者
平均年齢58歳！グループホーム職員たちの挑戦～視線を合わせる・触れる・優しく話しかける～



有馬 儀子
医療法人社団 実幸会
ユーカリデイサービス酒井根
介護職
医療ニーズが高い方が外へ出たら笑顔になった！～デイサービスと訪問看護ステーションの新たな連携～

木原 明子
医療法人 宮城会 宮城医院
通所リハビリテーションゆき倶楽部
介護福祉士
けやき倶楽部（通所リハビリ）における玩具療法の取り組み

平山 裕己
医療法人 あいち診療会
理学療法士
生きがいとする活動・参加目標設定に対する取り組み

佐藤 奈美子
たなだ内科 ケアセンター
介護福祉士
作業活動で利用者から学んだこと～ひょうたんからこま～

加藤 達也
NPO法人 日本総合リハビリist協会
機能訓練士
自立支援型デイサービスにおける排泄リハケアと各プログラムの関連について

広田 創
医療法人社団 実幸会 いらはら診療所
理学療法士
在宅で“運動麻痺”をどうみていくか

池島 公一
大和会グループ 社会福祉法人
秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里
介護福祉士
介護の心は知識から～自信とやり甲斐を繋ぐ研修であるために～

山本 純也
社会医療法人 仁生会 細木病院
リハビリテーション課 在宅部
理学療法士
ケアミックス病院でのリハビリ連携の再考～生活期リハを見据えて～

太田 伸一
社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム
介護福祉士
特養入所者の自宅での看取り

林 より子
医療法人坂梨ハート会 坂梨ハートクリニック
看護師
当診療所における在宅患者の関わりと学びー ALS 患者様 15 年目の関わりを通してー

林 光政
社会福祉法人 幸済会 高齢者グループホーム かわしまの里
管理者
グループホームを看取りの場へ

黒木 みほこ
医療法人坂梨ハート会 坂梨ハートクリニック
看護師
在宅ホスピスを希望患者との短期間の関わりから学んだこと

西澤 文恵
ケアマネジメントセンターあさくさ
介護福祉士
浅草地域多職種連携「緩和ケア啓発活動」におけるケアマネジャーの現況と認識

中岡 亮治
医療法人社団 都会 西賀茂デイサービス
センター
介護職員
やる気スイッチを探して

阿部 日向子
医療法人社団 いでした内科・神経内科
クリニック
生活相談員
家庭での生活を見据えた、デイサービスへの活動について

松田 真奈美
医療法人社団 いでした内科・神経内科
クリニック
生活相談員
デイサービスにおける笑いヨーガとヨーガの効果について

岡村 優利花
医療法人社団 いでした内科・神経内科
クリニック
健康運動実践指導者
レドコード・エクササイズの転倒予防について

寺田 美恵子
生活協同組合パルシステム東京
市民
市民が取り組むリスクマネジメント評価活動

安藤 貴子
医療法人 あいち診療会 あざい訪問看護
ステーション
看護師
訪問看護師の役割 独立型訪問看護ステーションとなつての取り組み

吉田 理
特定医療法人フェニックス
社会福祉士
2025 年を見据えた医療介護の人材育成戦略～地域包括ケア時代の育てあい、支えあう組織へ～

中村 豪志
医療法人社団 いでした内科・神経内科
クリニック
臨床検査技師
業務改善活動の効果について

佐宗 みど里
医療法人信愛会 徳の国訪問看護ステーション
看護師
限られた時間をどう過ごすか ～利用者・家族の目標を共有する～

小池 康代
特定医療法人フェニックス
看護師
老健の役割と看取りケアを見つめて

三嶋 泰之
医療法人社団 佐倉の風
さくら風の村訪問診療所
医師
神経難病（慢性炎症性脱髄性多発神経炎 CIDP）を患っていた 33 歳男性の経過について思うこと

喜田 真美
医療法人 啓友会 小規模多機能ゆ～らり
介護福祉士
喜怒哀楽の表情を最期まで ～人として、自分の感情を思う存分表現して頂くために～

工藤 友裕
看護師
看護師
「ターミナル患者の療養の場の選択について」～患者と家族の思い～

蓮尾 ゆかり
医療法人社団 都会
ホームヘルプステーション ひまわり
介護職
ちゃんと薬のめたかな？

宮原 富士子
特定非営利活動法人浅草かんわんわつと
ワーク研究会
薬剤師
居宅療養指導における「服薬支援」「服薬支援」に関するサービスに関する薬剤師と介護職の連携における認識・課題と解決策

箱崎 麻美
友愛薬局 小原店
薬剤師
施設における下剤の使用状況と薬剤師の関わり

斎木 和仁
うおぬま調剤グループ
残葉の実情と薬剤師のアプローチ

阿部 亜希子
うおぬま調剤グループ
ひらめき☆ 100 円ショップアソーのススメ
～服薬支援にリンクさせるまで～



会場名	特別会議場	中ホール A
ホール名	第 1 会場	第 2 会場
席数	500 名	240 名
13:40	13:40～16:20 実践交流会 2 【認知症】	13:40～14:40 実践交流会 9 【教育】
14:00	座長:大澤 誠 (医療法人あづま会 大井 戸診療所)	座長:長縄 伸幸 (医療法人フェニックス 鶴沼中央クリニック)
14:30	西村 敏子 (北海道認知症の人を支える家族の会)	中川 貴史 (寿都診療所)
15:00		15:00～17:20 実践交流会 1 【緩和ケアと看取り】
15:30		座長:中嶋 啓子 (医療法人 啓友会 なかじま 診療所)
16:00		阿部 泰之 (旭川医科大学病院 緩和ケア診療部)
16:30		
17:00		
17:30		

蒔田 瑞穂
医療法人社団 実幸会 南柏訪問看護
ステーション
理学療法士
在宅ケアにアロマセラピーを取り入れた変化について

勝山 由実
介護付有料老人ホーム ユーカリ小原
介護職
有料老人ホームでのノルウェー疥癬の入居者様への対応と施設の取り組み

柳沢 江美子
大和会グループ 社会福祉法人
秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホーム あざみの里
介護福祉士
ケアの変革は若い世代のリーダーシップから
～ 20 代の挑戦と成長を通して得た学び、そしてこれから～

山岸 大輔
船橋市認知症高齢者グループホーム連絡会
副会長
連携に向けた取り組み ～グループホーム連絡会の活動を通して～

齋木 実
医療法人社団 満寿会 鶴ヶ島在宅医療
診療所
医師
「彩の国連携力育成プロジェクト」に施設側ファシリテーターとして参加して～無垢な学生のうちから同じ目標の多職種連携を～

豊嶋 昭彦
医療法人社団 都会 渡辺西賀茂診療所
介護福祉士
地域づくりの第一歩として～おせっかいカフェの目指すところ～

甘利 秋月
特定医療法人 フェニックス
フェニックス在宅支援クリニック
言語聴覚士
フェニックスの新たなチャレンジ～地域の中での役割と取り組みについて～

浅沼 裕子
医療法人社団 実幸会 いらはら診療所
事務長
生活困窮者一時宿泊施設の試み

笹元 慶仁
医療法人 ネリヤ ファミリークリニック
ネリヤ事務部
事務職
「離島でもできる在宅ホスピス」～事務職員でもできる在宅ホスピスの可能性～

富丸 美由起
社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム
介護支援専門員
ユニット待機者を増やす為に～在宅から施設入所を継続したもの～

尾崎 宏之
医療法人社団 もりもと 森本外科・脳神経外科医院
介護支援専門員 社会保険労務士
障害年金請求に関する一考察

工藤 聡
看護小規模多機能型居宅介護事業所
せせらぎ
作業療法士
看護小規模多機能型居宅介護事業所における作業療法士の役割と連携

水野 敏江
医療法人 あいち診療会あいち診療所
のなみ訪問看護ステーション
看護師
地域を支える在宅栄養管理の実践にむけて

松浦 信一
医療法人社団 松浦歯科医院
歯科医師
地域の多職種連携による食べられる口づくり食べるを評価、サポートするための問題と課題

山田 有華
医療法人社団 萌気会浦佐診療所
栄養調理部
管理栄養士
食への「関わり方」が喫食に及ぼす影響

今村 太泉
医療法人 坂梨ハート会 坂梨ハートクリニック
在宅医療部
理学療法士
在宅継続の危機を乗り越え独居で暮らすー心理的満足度（QOL）の推移についてー

山田 美穂
社会福祉法人 フェニックス
社会福祉士
私たちからできること
～一歩先を見据えて～

中居 江美
社会医療法人 仁生会 細木病院在宅部
高知市北部地域高齢者支援センター
城西出張所
相談員
事例から見えてくる地域力の現状と支援センターの関わり「地域包括ケアに向けて」



光銭 裕二
光銭歯科医院
歯科医師
「口腔ケアが食することに果たす役割」
～事例を中心に～

早川 めぐみ
社会福祉法人 ノマド福祉会特別養護老人ホーム
介護支援専門員
【介護福祉施設における口腔ケアと自立支援】
最新まで食べられる口づくり

大形 あずさ
特定医療法人 フェニックス
フェニックス総合クリニック
言語聴覚士
食べる喜びをいつまでも
～最大の家族支援は経口摂取～

手塚 雅子
医療法人社団 函館脳神経外科病院
栄養管理室
管理栄養士
当院における嚥下障害患者へのアプローチ

山田 純子
社会福祉法人 秦ダイヤライフ福祉会
特別養護老人ホーム絆の広場
介護支援専門員
重度独居者の在宅生活を支えるユニット型特養のショートステイの事例～ご本人と家族の希望の実現に向けて～

川口 裕也
医療法人 啓友会 介護老人保健施設
洛西けいゆうの里
作業療法士
「自宅で生活したい」を支える、老健のチームアプローチ ～生活リハビリのチカラ～

佐々木 郁恵
医療法人あすか 毘沙門クリニック通所リ
ハビリテーション 野の花
理学療法士
ご家族と共に生活リハビリを実践して

濱口 雅子
社会医療法人 仁生会 細木病院 ケア
サポートセンターほそぎ
ケアマネジャー
地域包括ケアシステムへの関わり ～病院併設の居宅介護支援事業所の取り組み～

中堀 千賀子
医療法人 あいち診療会 あいち診療所野並
看護師
地域の健康寿命を支える診療所の看護外来

中内 一夫
在宅療養支援診療所 土井医院
作業療法士
住み慣れた自宅で過ごしたい～早期にチームで希望を支えるために～

理事会報告

2014 年度 第 4 回

開催日：2015 年 8 月 23 日 9：00～13：00

場所：プラザ八重洲北口（東京中央区・八重洲）

出席理事：（敬称略）石田 一美、井村 隆、苛原 実、上村 伯人、大川 延也、大澤 誠、岡崎 和佳子、金井 秀樹、金田 弘子、草場 鉄周、黒岩 卓夫、桑原 由次、小林 るつ子、長 純一、中嶋 啓子、長縄 伸幸、畑 恒土、福田 善晴、藤村 淳子、森本 益雄、吉井 敦子、吉永 隆行（オブザーバー）中嶋 久矩 楠元 寛之

欠席理事：（敬称略）青木 佳之、太田 秀樹、渋谷 温之、多湖 光宗、永井 康徳、西嶋 公子、新田 國夫、萩田 均司、宮坂 圭一、村山 善紀、永井 康徳

今回の理事会は主として 10 月 12 日の総会に向けての議案書の検討を行いました。議事録は作成中ですが、10 月開催の『全国の集い in 北海道 2015』において予定されている。実践交流会、理事会企画の紹介をさせていただきます。

- 第 1 日目の実践交流会については演題募集要項発行時のプログラムに対し、会場割り当てが変更となりました。P4～5 に紹介させて頂いております。各座長様に対し円滑な進行をお願いいたしました。
- 2 日目の理事会企画についてはその趣旨・目的を主として企画書からの引用として紹介させていただきます。



理事会企画 1

不同意メッセージとユマニチュード
2 日目：午前、会場：特別会議場

わが国は世界に類を見ない長寿国であり、また高齢化率の高い国でもあります。長生きすれば認知症になる確率が高くなることは明らかであり、私たちが健康管理をしっかりすればするほど認知症患者は増えることになります。自分が認知症になった時にどんなサービスを受けたいか真剣に考えなければならない時がやってきたといってもいいでしょう。

転倒するといけいからと歩かせてもらえない状況に自分が置かれたら・・・どうでしょう。様々な介護現場で多くのスタッフが認知症の BPSD と悲惨な戦いを繰り広げています。

そんなところにいる利用者もスタッフもかわいそうというしかありません。本人が嫌がることを全くせずにケアが行われている施設がいくつかあります。

ユマニチュード（Humanitude®）とは、認知症の人のケアをするためのフランスのイヴ・ジネスト氏によって開発された新しいケアの技術であり、それを可能にすると云えます。

北海道大会では、様々な介護現場でケアする人とケアされる人を愛情を持って観察し、その経験から認知症の方が怒りを爆発させる前に発信する「不同意メッセージ」を受け取るうと提案されている演者にその不同意メッセージとユマニチュードについて紹介して頂きます。



理事会企画 2

地域包括ケアの完成を目指して～病院との関係構築について～
2 日目：午後、会場：中ホール A

これまで本会では、地域包括ケアシステムに関する講演会やシンポジウムを繰り返し開催してきた。その中で議論が十分にされていないことが、病院との関係構築に関することである。病院はある意味在宅医療患者が発生する場であるが、病院医師の無理解により必ずしもスムーズな在宅移行ができないことが少なくなかった。さらに、病院の地域包括ケア病棟との連携で在宅医療の充実を図ることも可能である。

そこで国立長寿医療センターの在宅医療室長であり、地域開放病棟の運営責任者である三浦久幸室長に基調講演をして頂いたああと、多職種で病院との関係構築をどうすればよいのか議論する。

シンポジストとしては松戸市から地域医療拠点事業を委託して、病院で多職種連携模擬カンファランスなどを試みている、いらはら診療所在宅医療部長の和田忠志氏。社会福祉法人理事長で鹿児島市内に小型特養、特定施設などのアルテンハイム鹿児島を本年作った吉井敦子氏。大阪市生田区でケアマネジャー、看護師として事業所を営んでいる岡崎和佳子氏。松戸市役所介護制度改革専門監で講演で全国を飛び回っている中沢豊氏。司会は当会会長である、いらはら診療所院長の苛原実氏のメンバーで討論を行う。

それぞれの立場から、病院との関係構築の困難性や工夫を議論して行きたい。

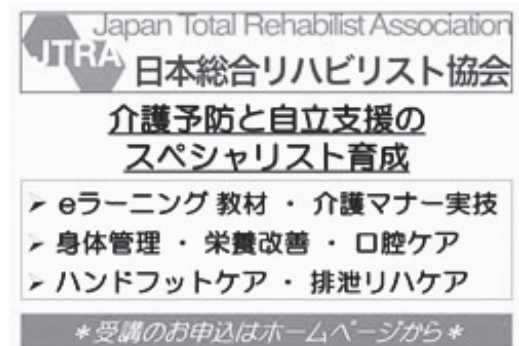
次回の理事会 2015 年度 第 1 回 2015 年 10 月 12 日（日・祝）：札幌市

Mail Magazine

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配信されている記事の転載版です。

今回はメルマガより医師・法人会員活動員紹介のコラムを掲載いたしました。

（スタイル等は一部変更しています。）メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。



私が歯科医師になり 10 年が過ぎた 2000 年に介護保険制度が始まり、開業医だった私は近隣の高齢者施設の担当医をさせて頂く事になりました。すると、そこには過去に私の歯科医院を受診していた患者様方が寝たきり状態でおり、口腔内を診ると臭いもひどく変り果てておりました。

何かの理由で通院できず、そのまま診療所から離れている方々を目の当たりにした時『井の中の蛙大海を知らず』とは自分のことだと気付き、それ以来、施設や在宅に訪問し治療や口腔ケアに力を注ぎ始めました。

訪問歯科診療をしていると患者様だけではなく御家族は勿論、介護に関わる様々な職種の方々から口腔に関わる質問や相談を受けることで交流ができ、私にとっての多職種地域連携の始まりでした。ちょうど、巷でも高齢化社会に向かうにつれ介護現場で様々な問題点が現れ、特に介護施設で働く職員のスキルの差が多く、高齢化社会には必要な職種にも関わらず社会的経済的地位の低さも否めず、また介護現場に携わる医療等専門職の対応力や連携力の低さも確認されてきました。

そこで私は 2005 年に日本総合リハビリスト協会設立、介護・医療の職場の中で自己の心・技・知を自ら育てていく事をテーマに、医療と介護の連携をとり易く、より専門職が介入しやすい状況を作り続けるために、様々な職種で構成する教育・研修・研究事業を行ってきまし

た。多職種が共同で互いの職域を理解し、運動器・口腔・栄養・排泄・フットハンドケアを関連付けたサービスの実施可能な人材育成を行い、自立支援・介護予防の専門介護職『リハビリスト』を養成し認定資格制度導入、質の高い介護サービスの取り組みに対して介護保険制度単位化されれば、介護職の社会的経済的地位向上が成されるのではないかと期待しております。

当協会も今年で 10 周年を迎えますが、第 17 回信州大会から参加させて頂き、第 18 回高知ではランチョンセミナー、第 19 回新潟と第 20 回岡山では実践交流会にて御蔭さまで賞を頂けるようになりました。今後は介護の仕事が、日本の未来を担う子供達の憧れの職業となれるよう、多くの『リハビリスト』を育成していく所存です。皆様と共に介護業界を元気にしましょう！

NPO 法人日本総合リハビリスト協会
〒246-1002
神奈川県横浜市瀬谷区二ツ橋町 318-15
TEL 045-1744-1540
FAX 045-1360-1104
E-mail info@npj-tr.org
介護・ランチョン申込はこちら
URL npj-tr.org

第21回全国の集い in 北海道2015

鹿児島プレ大会の開催!!

竹内孝仁教授の自立支援セミナー

開催日時 | 平成27年9月6日(日)
午前10時～
会場 | 鹿児島県市町村自治会館(4Fホール)
鹿児島市鴨池新町7-4



内容 | 第1部
講演 10:00～12:30
・オムツはすしのための理論と基礎知識
～お世話から自立支援介護へ～

第2部

シンポジウム 13:30～15:30

1. 「家族で治そう認知症」～施設ケアから家族ケアへ～
2. 「オムツゼロ特養での取り組み」～特養から在宅復帰(在宅・入所相互利用の実践)～
3. 「特養での看取り」～最後はご自宅で～

主催: 社会福祉法人 野の花会
(第22回全国の集い in 鹿児島2016大会実行委員会事務局)
共催: NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

詳しくはNPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークのホームページをご覧ください。

活動予定

第21回 全国の集い in 北海道2015
平成27年10月11日(日) 12日(月) 祝
場所…札幌市

第1回 理事会
平成27年10月12日(月・祝)
場所…札幌市

第2回 理事会
平成28年2月21日(日)
場所…東京

第3回 理事会
平成28年5月22日(日)
場所…東京

東京事務局からのお願い

東京事務局では情報収集・発信事業の一環として介護等に関わる各種情報の分類・整理・発信を計画しております。

理事会において、出席された各理事に対し、各々の診療所・施設で発行している会報・情報誌・広報誌等を可能であれば東京事務局へ送付して頂きたいとしました。その件に関し、改めてこの紙面でお願ひ申し上げます。その内容の取り扱いに関し、個人情報等には十分な配慮をさせていただきます。

お送りいただく場合、印刷物、電子的データいずれでも構いません、下記住所及びメールアドレスにお願ひいたします。購読料等の必要がある場合は事前にお知らせください。

ご質問等ありましたら、電話、FAX 又はメールいずれでも結構です。

〒112-0014

東京都文京区関口1-19-2 第2弥助ビル5F

株式会社キャナル・コンピューター・プリント内

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 東京事務局

TEL: 03-3235-7906 (平日10:00～16:00)

FAX: 03-3235-4880

e-mail: tokyo-jimukyoku@home-care.ne.jp

風の萌

2015年9月1日発行(第031号)

頒 価: 1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokonet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市緑区簗山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

夏ももう少しで終わり、秋が来ようとしています。
暑い時期もあと少しです。

全国大会まで、2ヶ月を切りました。

皆様もお忙しい日々をお過ごしのことと思います。
急に季節が変わると体調を崩すこともあります
ので、お体には気を付けて下さい。

東京事務局 犬童